



山陽スピリット ニュース



2016(平成28)年7月12日

学校法人 山陽学園

広報・山陽スピリット推進室 発行

山陽学園の仕事

「仕事」と聞いて、皆さんはどんなことを想像しますか。お金を稼ぐための労働でしょうか、誰かを幸せにするための使命でしょうか。

山陽学園創立130年を記念した今年度、6月1日に行われた上代皓三記念講演会では、元山陽学園理事の笠井英夫先生から「山陽学園の仕事」というお話がありました。笠井先生から直接お話を聞いた皆さんはどんなことを感じましたか。また、講演に参加できなかった皆さんは、このテーマからどんなことを想像しますか。山陽学園の仕事とは一体何か、笠井先生の講演を振り返りながら、考えてみましょう。

より良く生きる知恵を

今、身につける

笠井先生は、まずご自身と山陽学園とのつながりについてお話されました。笠井先生のお父様は、戦後の復興の時期に緑会(PTA)会長を務められていたこともあり、山陽の苦しい時代を支えた一人でもあります。また、皓三先生とはお互いに医師という同じ職業での共通点もあり、皓三先生のご紹介で笠井先生のお姉様がご結婚されたこと、そのお相手は、日本医科大学生化学教室の愛弟子であり、しかも斎藤茂吉のご親戚ということで、アララギ派の歌人であった皓三先生との新しいつながりが見つかったというエピソードもありました。

笠井先生のお母様やお姉様が山陽の同窓生だったので、台所には「日めくり」がいつも掛

かっていたといいます。日めくり「日々のおしえ」の言葉を毎日目にするうちに「自然と山陽学園との縁がつながっていたのだと、今になって感じています。つまり、山陽学園の精神、愛と奉仕という行いを知らないうちに移植されていたのです」と語られました。

中学・高校の生徒の皆さんは、毎朝「日めくり」を読んでいますね。はじめのうちは戸惑ったり、慣れてくるとめんどろだなどと思ったり、なんでこんなことをするんだろうと疑問に思う日もあるでしょう。しかし、多くの同窓生が山陽のことを思い出す時、日めくりの言葉を懐かしく語るのです。

笠井先生は「日めくりの教えの内容は、何年経ってもどこに行っても変わらない、愛と奉仕という行動のもとになるもの」とおっしゃいました。今すぐは分からなくても後になってそんな言葉もあったなと思い出して自分自身の生活に役立てる、そういうより良く生きるための知恵を今、積み重ねているのです。

笠井 英夫 先生



昭和37年
岡山県立操山高等学校卒業
昭和44年
岩手医科大学医学部卒業
昭和52年
岡山大学医学博士
平成5年
岡山大学法学部法学科卒業
平成14年4月～平成24年3月
岡山県医師会理事
平成19年9月～平成26年12月
山陽学園理事
平成26年6月～平成28年6月
日本医師会常任理事

目には見えない慈しみ

笠井先生は講演の前にドイツを訪れ、世界と日本をくらべてみると女性の社会進出が遅れていると実感されたそうです。現在、日本の女性は職業人として、また母や妻の役割も期待されていて、女性に負担があり過ぎるのではないかという点も懸念されていました。女性が働くためには保育所を増やせばいいという議論がありますが「制度を整えるだけでは子どもを育てるには充分ではない。子どもが病気の時、子どもは親にはそばに居て欲しいものだ」という人間の心の部分にも触れておられました。

介護施設で入所者を「ほかす(捨てる)」ように、窓の外へと落としてしまった事件を取り上げて「こういう事件が起きるのは、人間としての大切なものを知らなかったからで、資格や待遇を整えることだけを優先してしまった結果ではないか。人間としての愛、相手を慈しむ心をまず育てなければならぬ」とおっしゃいました。

人間は誰しも安心や安定を求めて、資格や技術などの目に見えるものを求めてしまうものです。しかし、手に入れた資格や技術をどのように用いるかは、それぞれ個人の心に委ねられているのです。例えば、火薬を花火にすれば多くの人の目を楽しませることができですが、鉄砲に詰めれば人を傷つけ命を簡単に奪う武器になります。技術をどのように用いれば多くの人に喜ばれるか、目には見えないことを判断して選び取る学びも大切なのです。

すごいぞ！人間のエネルギー

「山陽学園で学ぶ皆さんがこれからの社会に向けてできること、それは愛と奉仕の心でもって物事を行うということです。それが山陽学園の仕事なのです」と笠井先生は呼びかけ、岡山空襲直後の焼け野原になった写真と3年後の岡山市内の写真をくらべて語られました。「たった3年で何も無い焼け野原から、こんなにも住宅が建ち並ぶ街が出来ました。人間のエネルギーというのはすごい、こんなエネルギーが人間にあるということを皆さん方も信じて頂きたいと思います」と講演を結ばれました。

「もう駄目だ」という困難な状況から立ち上がる時、人は新しい自分を知ることになります。「もう駄目かもしれない」と諦めそうになった時、「でも、もしかしたら・・・」と新しい発想が生まれることもあるのです。困難な状況から立ち上がろうとする時、「こんなこと出来るとは思わなかった」という新しい自分を発見できるのです。ですから何事にも挑戦できる可能性の芽を育てて下さい。そして、何かに挑戦する時には自分自身に聞いてみてはどうでしょうか。「自分の行いは誰かの為になるだろうか、誰かの笑顔が見えるだろうか」このように自分に問い続けることが、山陽学園に学ぶ私たちの仕事なのではないでしょうか。

あなたの最善 今すぐに

(上代淑先生遺訓「日々の教え」17日)



笠井先生が講演で語った

「上代淑先生の思い出」

子どもの頃、天満屋の葦川会館へ行く淑先生に付き添った。淑先生は突然耳元で「ありがとう、なんにもお礼がでないから英語を教えてあげよう」とささやいた。当時は英語の話せる人はごく限られていて、しかも老婦人から出てきた英語はこれまで聞いた日本人英語とは違っていた。少年は日本人アクセントで「ハウ ドウユードウ グツドアフタヌーン」と真似してみたら「違う、How do you do? Good afternoon.」です、もう一回大きな声で！」と言われた。熱中して声が大きくなった少年を買い物が追いつきさまに振り返った。

ただ付き添った少年には自分のした事は小さな事のように思えた。しかし、淑先生は喜んでくださった。感謝の気持ちを表すという事を教えてくださった淑先生の手の温もりは、今でも昨日のこのように覚えている。